

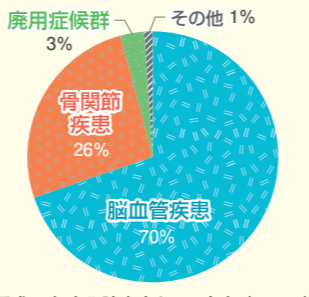


数字でみる錦海リハ

どんな疾患の患者さんが入院されていますか？

回復期リハビリテーション病棟は、入院することができる患者さんの条件や入院期間が定まっている病棟です。平成29年度に当院に入院された患者さんは206名でした。そのうち脳梗塞や脳出血等の脳血管疾患の患者さんが145名(70.3%)、大腿骨頸部骨折等の骨関節疾患の患者さんが54名(26.2%)、肺炎や外科手術後の廃用症候群の患者さんが6名(2.9%)、その他の患者さんが1名(0.4%)でした。

※回復期リハビリテーション病棟入院対象疾患には、脳梗塞や脳出血といった脳卒中や、脊髄損傷、頭部外傷、大腿骨頸部骨折、肺炎・外科手術後の治療時の安静による廃用症候群等があります。対象疾患は診療報酬制度により定められています。



平成29年度入院患者さんの疾患 (n=206)

専門雑誌・書籍掲載

- 北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
在宅リハビリテーションミーティングを実施したことで業務改善の一考察
総合リハビリテーション第45巻第10号、医学書院、2017.10.10
角田賢(医師・病院長)
病院・施設紹介 社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院
日本リハビリテーション病院・施設協会誌2018年冬No.164、日本リハビリテーション病院・施設協会、2018.2
角田賢(医師・病院長)
特集/医療ITを活かすチームリハビリテーション 地域連携におけるICTの活用
一地域医療連携ネットワーク「おしどりネットワーク」
メディカルリハビリテーション No.219、全日本病院出版会、2018.2
大野淑恵(看護師・看護師長)
退院先決定に悩む家族の支援と、退院指導に苦慮した事例
リハビリナース 第11巻2号、メディカ出版、2018.3.10
角田賢(医師・病院長)
特集/訪問リハビリテーション 鳥取県西部地域の現状
総合リハビリテーション 第46巻 第3号、医学書院、2018.3

外部講演

- 原大樹(理学療法士・リハビリ技術部主任) 足立睦未、横木貞史(理学療法士)
転ばないために知っておきたい知識と体操
第34回アクティブシニア健康教室、2017.10.16、米子市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)
「臨床」・「研究」・「教育」そして「社会貢献」に注力する、新人から参加する理学療法部門の運営
第52回日本理学療法士協会 全国学術研修大会、日本理学療法士協会主催、2017.10.20、石川県
角田賢(医師・病院長)
回復期リハのチームアプローチへ他職種の理解～
第105回全職種研修会、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2017.10.28、大阪府
榎田真由美(言語聴覚士)
回復期リハビリテーション病棟における栄養管理
西部在宅ケア研究会 第61回例会、西部在宅ケア研究会主催、2017.11.8、米子市
角田賢(医師・病院長)
地域包括ケアシステムのためにリハビリテーションは何をなすべきか
出雲地域介護保険サービス事業者連絡会研修会、出雲地域介護保険サービス事業者連絡会主催、2017.11.10、出雲市
角田賢(医師・病院長)
カンファレンス運営の工夫と今後の課題
第7回電子カルテ共通病院研究会、電子カルテ共通病院研究会主催、2017.11.11、大分県
角田賢(医師・病院長)
地域包括ケアシステムとリハビリテーション
松江地域リハビリテーション研究会、松江地域リハビリテーション研究会主催、2017.11.14、松江市
岩田久義(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
しっかり噛んで飲み込んでおいしいものを食べて健康長寿
口から始める健康づくり講座「成美地区」、米子市主催、2017.11.22、米子市
遠藤美紀、足立睦未、西門美都(理学療法士)
腰痛予防に対する知識と日常生活で心がけること
第35回アクティブシニア健康教室、2017.11.24、米子市
角田賢(医師・病院長)
回復期リハビリテーション病棟 総論
第106回全職種研修会、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2017.12.2、東京都
角田賢(医師・病院長)
地域包括ケアシステムとリハビリテーション 回復期から生活期を中心に
岡山リハビリテーション病院 第16回リハビリテーション講演会、岡山リハビリテーション病院主催、2017.12.2、岡山県
角田賢(医師・病院長)
多職種の理解～回復期10ヵ条を中心に～
第9回復期管理者研修会、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2017.12.9、東京都
岩田久義(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
しっかり噛んで飲み込んでおいしいものを食べて健康長寿
口から始める健康づくり講座「成美地区」、米子市主催、2018.1.17、米子市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)
回復期における教育管理、生活の視点を持った理学療法士の関わり方
日本理学療法士協会 職域別管理者中央研修会、日本理学療法士協会主催、2018.1.21、東京都
今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)、遠藤美紀、松原岳洋、西門美都、鳥谷香蓮(理学療法士)
器質的腰痛と社会心理的腰痛
2018.1.26、米子市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)横木貞史、増原俊幸、西門美都、野坂進之介、鳥谷香蓮(理学療法士)
高齢者における転倒の特徴および腰痛と関連の深い座位を学び、予防に活かす
2018.1.29、米子市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)、足立睦未、増原俊幸、松原岳洋、西門美都、鳥谷香蓮(理学療法士)
近年注目される腰痛の原因と予防運動を知る
2018.1.31、米子市
角田賢(医師・病院長)
パネルディスカッション 多職種で取り組む回復期リハ病棟の影響管理～低栄養を改善するために、看護師・セラピスト、管理栄養士の視点から考える～
第31回研究大会in岩手、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2018.2.2、岩手県
小谷優平(言語聴覚士)
認知機能低下と誤嚥性肺炎の予防について
米子市大町健康サロン、やっぴ未来やっぴ「大町町福寿会」主催、2018.2.14、米子市
角田賢(医師・病院長)
2018年診療報酬改定の答申速報を踏まえた錦海リハビリテーション病院の対応具体策
2018年診療報酬改定の速報解説と回復期リハ病棟の経営戦略セミナー、保健・医療・福祉サービス研究会主催、2018.2.18、東京都

- 今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)、増原俊幸、長崎正義(理学療法士)
ころばないために知っておきたい認知症の知識と予防改善運動
第36回アクティブシニア健康教室、2018.2.23、安来市
竹内茂伸(言語聴覚士・副院長)
次の時代に向けて進む言語聴覚士の路(診療報酬・介護報酬同時改訂情報)
第9回学友会総会、松江総合医療専門学校学友会主催、2018.2.24、松江市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)、上村順一、松原岳洋、足立睦未、鳥谷香蓮(理学療法士)
認知症と運動の新たな関係を学び、転倒予防を図る
2018.2.28、安来市
村上英里(作業療法士)
記者が就労継続しつつ在宅生活が維持されている小脳出血両側性運動障害例
第24回鳥取県西部脳卒中チームレス会議、鳥取県西部脳卒中チームレス会議主催、2018.2.28、米子市
角田賢(医師・病院長)
診療報酬・介護報酬の同時改定 地域包括ケア時代の回復期リハビリテーション病棟
山口県回復期リハビリテーション病棟研究会、山口県回復期リハビリテーション病棟研究会主催、2018.3.3、山口県
角田賢(医師・病院長)
鳥取県西部の回復期リハビリテーション医療の現状と錦海リハビリテーション病院の取り組み
竹内茂伸(言語聴覚士・副院長)
リハビリテーション統括部の紹介
善波吉人(社会福祉士・事務長兼地域医療連携室室長)
地域医療連携室における院外連携の取り組み
今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)
「互恵互助」に基づき実践する、「臨床」・「研究」・「教育」そして「社会奉仕」に注力する理学療法部門の取り組み
北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
人を育て、仕事に活かす作業療法部門の取り組み
岩田久義(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
錦海リハビリテーション病院言語聴覚療法部門
これからの介護医療経営、これからの介護医療経営
善波吉人(社会福祉士・事務長兼地域医療連携室室長)
平成30年度 診療・介護・障害福祉サービス報酬のトリプル改定に備える
平成29年度第2回鳥取県社会福祉士会西部地区研修会、鳥取県社会福祉士会主催、2018.3.10、米子市
上村順一(理学療法士)
糖尿病と運動習慣
第37回アクティブシニア健康教室、2018.3.16、米子市
角田賢(医師・病院長)
これからの地域連携、リハビリテーション
第24回脳卒中地域連携バス合同委員会、松江市脳卒中地域連携バス合同委員会主催、2018.3.22、松江市

学会発表

- 増原俊幸(理学療法士)
当院訪問理学療法における3年6ヶ月間の介護支援勉強会の取り組み
原大樹(理学療法士・リハビリ技術部主任)
起立動作時のプラットフォームへの下腿後面の押し付けが脳卒中片麻痺症例における起立動作および一連の歩行時の筋活動に与える影響
長崎正義(理学療法士)
回復期病棟入院中と訪問時における理学療法の運動強度
真壁健太郎(介護福祉士)
当院のレクリエーションと他院の比較 ～全国回復期リハビリ病院調査結果より～
リハビリテーション・ケア合同研究大会久留米2017、2017.10.19-21、福岡県
原大樹(理学療法士・リハビリ技術部主任)
脳卒中患者における入院時、入院1週間後および1ヵ月後の基本動作の自立度と退院時の歩行自立度の関連性
岡野有希子(作業療法士)
独居高齢者の在宅復帰に向けた支援 一生活習慣との関連が疑われる肺炎後廃用症候群の一例～
第45回中国四国リハビリテーション医学研究会、2017.12.10、米子市
永岡直充(理学療法士)
活動量計を用いた歩行練習時の評価から歩行練習における目標値の検討
野坂進之介(理学療法士)
認知機能障害を有する者の転倒状況を把握し、転倒予防策を講じる
河本湧麻(作業療法士)
上肢筋力低下が遅延したギランバレー症候群に対し、作業療法的視点での環境調節により早期の食事自立に有効であった一例
足立真一(作業療法士)
趣味活動を通して前頭葉症状の軽減を図れた一症例
榎田真由美(言語聴覚士)
在宅生活に向けたリハビリテーションと栄養の再考→退院後の自宅訪問を通して一
回復期リハビリテーション病棟協会第31回研究大会in岩手、2018.2.2-3、岩手県

※氏名、職員の肩書は掲載、開催時点のものであり現在は変更があります。

診療方針：わたくしらは

回復期リハビリテーション医療と地域連携を通して患者さんの社会参加を支援します。

錦海リハビリテーション病院

〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5
TEL 0859-34-2300【代表】
FAX 0859-34-2303



KINKAI REHABILITATION HOSPITAL NEWS



錦海リハビリテーション病院ニュース

発行：社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院

TEL：0859-34-2300【代表】
E-mail：kinkai-hp@kohoehn.jp
URL：http://www.kinkai-rehab.jp

2018 VOL. 07

SPECIAL 最前線 1

錦海リハビリテーション病院

リハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018開催

「互恵互助」をテーマにリハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018を開催します。

平成30年10月3、4日の二日間、米子コンベンションセンターと米子市文化ホールを会場として、リハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018を開催することになりました。平成9年に熊本で第1回大会が開催されて以来、北海道から沖縄まで全国各地で開催されてきたこの大会も今年で第22回大会となりましたが、この度初めて山陰の地で開かれます。



互恵互助

演題募集
2018
4/2(月)～5/28(月)

リハビリテーション・ケア合同研究大会 米子2018

開催 2018.10.3(祝)～4(日)
会場 米子コンベンションセンター-第2018館
米子市文化ホール
実行委員長 角田賢
実行副委員長 竹内茂伸

リハビリテーションケア合同研究大会は、日本リハビリテーション病院・施設協会、回復期リハビリテーション病棟協会、全国デイ・ケア協会、日本訪問リハビリテーション研究会、全国地域リハビリテーション研究会、全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会の6団体の主催で行われる、急性期から回復期、生活期に至るリハビリテーションとケアに関する研究大会です。毎年秋に開催され、一般演題と各主催団体シンポジウム、



リハビリテーション・ケア合同研究大会久留米2017を視察し、次大会ブースでは米子大会のご案内をしました。

旧暦10月、全国の神様はお隣の鳥根県、出雲の国で「神禊り」を行い、人生諸般の事についてご相談なさります。一足先に鳥取の地に集い、これからのリハビリテーション・ケアにして語り合いませんか。皆さんの参加をお待ちしています。

社会福祉法人 こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
病院長 角田賢
(リハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018 大会長)

SPECIAL 最前線 2

医局の紹介 リハビリテーション科医の仕事

リハビリテーション科とは？

リハビリテーション科(以下リハ科)は他の臓器別の病気を診る診療科とはちょっと異なったアプローチで患者さんを診察します。我々が担当医療は「障害」に対する診療です。例えば「歩けない」ということが一番の問題の患者さんがいらっしゃると思います。原因は脳卒中かもしれませんし、下肢の骨折かもしれません。あるいは大手術で長い間寝たきり状態が続き、筋力が衰えたことが原因かもしれません。どんな原因であっても、患者さんにとっての困りごとである「歩けない」という問題を解決しようとするのが我々リハ科の役割です。



写真左から、リハビリテーション部長 田中泰明医師、病院長 角田賢医師、名誉院長 井後雅之医師、高田尚文医師

リハビリテーション科医は、リハビリテーション専門チームのリーダーであり舵取り役です。

リハ科医の役割は、まず医師として患者さんの全身状態をコントロールして、安心して訓練を可能とすることがあります。そして全体の目標を設定し、各専門療法士や看護師、介護士、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士などで作られたリハ専門チームをまとめていくことも重要な仕事になります。



ご家族や関係機関とのカンファレンスに出席する田中医師。退院後の生活へスムーズに移行できるよう努めています。

病気や障害の状態だけでなく、環境や本人の思いなどを総合的に勘案した上で治療方針を決定し、コントロールするチームの舵取り役がリハ科医なのです。

TOPICS 01 リハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018のご案内

角田賢病院長が大会長を務め、米子コンベンションセンターBiGSHiP、米子市文化ホールに於いて、平成30年10月3日(水)と4日(木)の二日間、リハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018を開催します。本大会が実り多きものになるよう精一杯準備させていただきますので、多くの方々の参加を心よりお待ちしております。

〈会期〉平成30年10月3日(水)～4日(木)
〈演題募集期間〉平成30年4月2日(月)～5月28日(月)

演題登録、事前参加登録、ランチョンセミナー参加登録、宿泊については全てオンライン登録となります。詳細は大会ホームページよりご確認ください。
(大会ホームページURL) <http://rc-yonago2018.jp>



リハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018 ホームページ

TOPICS 02 第45回中国四国リハビリテーション医学研究会、第40回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会は盛会のうちに終了しました

井後雅之名誉院長が大会長を務め、昨年12月10日(日)に米子コンベンションセンターBiGSHiPに於いて、第45回中国四国リハビリテーション研究会ならびに第40回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会を開催し、285名の参加を得て盛会のうちに無事終了することができました。一般演題49題の他、特別講演として、永島英樹先生(鳥取大学整形外科教授)に「脊椎外科の進歩」、橋本圭司先生に「発達障害・高次脳機能障害にどのように対応するか」、また協賛セミナーとして西岡心大先生に回復期脳卒中の栄養についてそれぞれ講演頂きました。

参加者の皆様、協賛、関係者の皆様、誠にありがとうございました。



学会終了後、会場前でのスタッフ集合写真

TOPICS 03 リハビリテーション栄養に関する院内勉強会を開催しました

平成29年12月11日(月)に、長崎リハビリテーション病院の栄養管理室長(管理栄養士)、西岡心大先生を錦海リハビリテーション病院にお迎えし、当院管理栄養士への個別指導及び病棟スタッフへ「回復期の栄養ケアと食の重要性」についてご講演いただきました。

講演では、リハビリテーション栄養での多職種連携や食べる楽しみの重要性について学びました。今回の講演と個別指導を踏まえ、入院時の栄養状態評価方法の変更やInBodyS10を使用した筋肉量測定でのサルコペニア(筋肉量低下)評価の検討を行っています。

今後も多職種での連携と楽しみのある食の提供を通じて、入院患者さんの栄養状態の改善に取り組んでまいります。



西岡心大先生の講演を聞き深く学ぶ病棟職員

TOPICS 04 石川誠先生をお迎えし、こうほうえん職員研修会を開催しました

平成30年3月4日(日)に、当院主催によるこうほうえん職員研修会を養和病院地域交流ホールにて開催しました。研修会では医療法人社団輝生会理事長の石川誠先生を講師にお迎えし、「リハビリテーションに係わる平成30年度診療報酬・介護報酬改定」をテーマにご講演いただきました。医師や看護師、介護士、リハビリスタッフ、社会福祉士等多くの職員が参加し、リハビリ関連項目を中心に医療介護報酬同時改定の内容とその方向性を学びました。

講演を通じ、正しさを追求する精神、チャレンジ精神、チームアプローチ等の普遍的なリハビリテーション・マインドについても再確認しました。



医療法人社団輝生会理事長 石川誠先生の講演の様子

TOPICS 05 角田賢病院長が松江市脳卒中地域連携パス合同委員会に講師として登壇しました

平成30年3月22日(木)に、松江市立病院がんセンター講堂にて第24回島根県松江市脳卒中地域連携パス合同委員会が開催され、当院角田賢病院長が「これからの地域連携・リハビリテーション～2018年診療報酬・介護報酬同時改定～」をテーマに講演しました。会議には当院を含めた松江圏域の急性期・回復期の医療を担う7病院の医師や看護師、リハビリスタッフ、社会福祉士、事務等の多職種、また生活期を担う在宅医療・介護連携センターや地域包括支援センターのケアマネジャー・保健師等多くの参加がありました。

2018年報酬改定の基本方針の一つである地域包括ケアシステムの構築に向けて、ますますこの地域での繋がりが重要になると強調しました。



角田賢病院長による講演の様子

TOPICS 06 平成30年度新入職員を迎えました

平成30年度新入職員として、理学療法士2名、作業療法士1名、言語聴覚士3名、介護福祉士1名、介護士1名の計8名を採用しました。

新入職員は3月末に法人全体研修を受講後、4月初旬には病院でのオリエンテーションや研修、その後各部署での研修を経て業務に携わっていくこととなります。

新しい仲間を迎え、より質の高い回復期・生活期のリハビリテーションを提供できるよう、これからも職員一丸となって取り組んでいきます。どうぞよろしくお願いいたします。



新入職員8名の集合写真